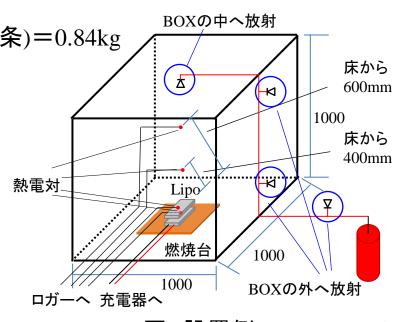
Lipo電池火災に対する消火効果検証

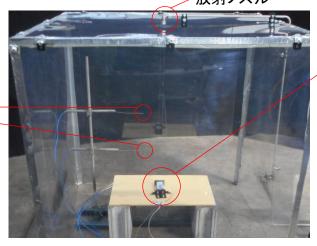
- 1.目的
- Lipo電池火災に対する消火効果を検証する
- 2.確認項目
- ・消火剤放出後、上部電池への伝播及び破裂の有無
- ・温度の比較
- 3.試験条件
- •Lipo電池:enRoute(2200mAh 3.7V 25C)
- •過充電条件:8V 4A
- •消火剤:FM4.0(ウォーターミスト)、FM4.0(Novecミスト)
- ・発火直後に消火剤放出
- ·燃焼BOX 1m×1m×1m=1m³
- •消火剤必要量 $1 \text{m}^3 \times 0.84 \text{kg/m}^3$ (消防法施行規則第20条)=0.84kg
- ・ノズル4つ使用
- •燃焼BOX内放射量 3.5kg÷4=0.875kg
- ・燃焼BOX内消火剤量および放射量を変えて実施



試験状況

放射ノズル

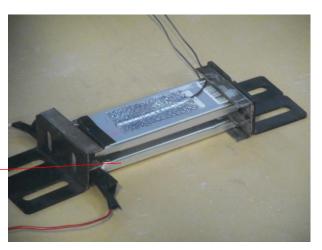
熱電対



試験設備設置例

Lipo電池 (表面に熱電対を 設置します)

> 下のLipo電池を 過充電します



Lipo電池設置例



Lipo電池発火状況

Lipo電池の両側から 炎が上がっています

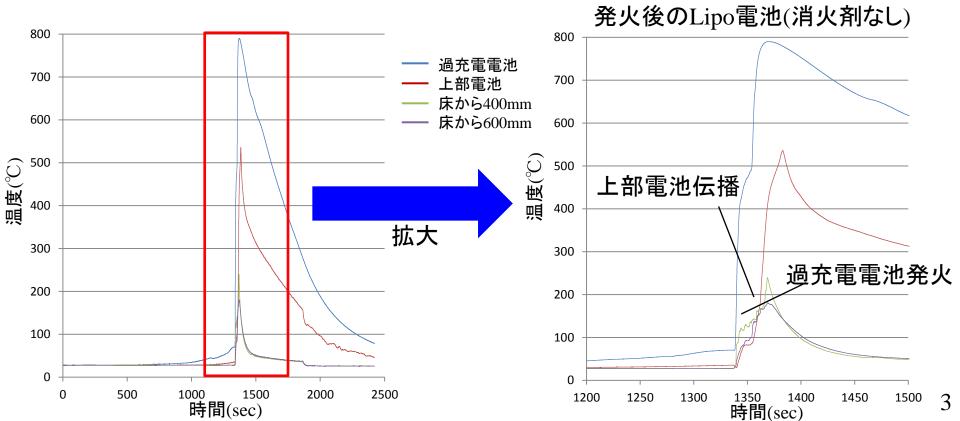
消火剤なし

1.条件 消火剤:なし

2.結果 過充電電池発火後 約20secで上部電池に伝播しました。

過充電していた電池の 上部電池も発火しました





ウォーターミスト

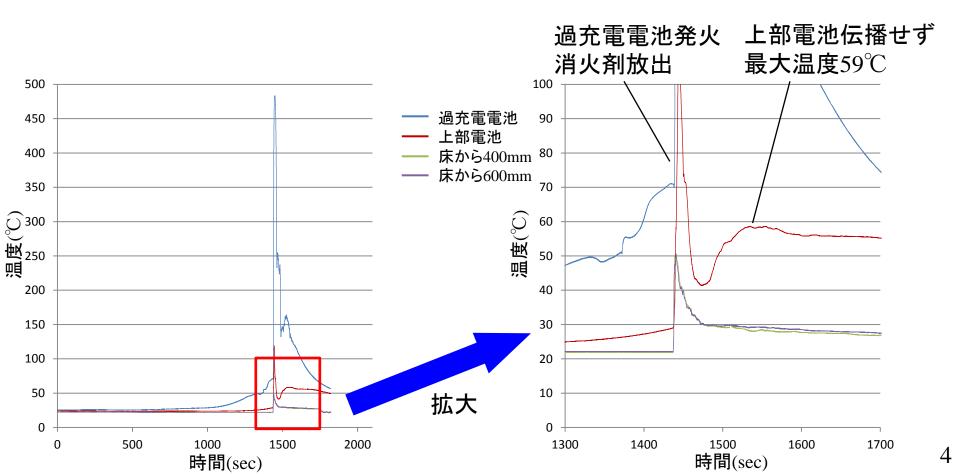
1.条件

消火剤:ウォーターミスト ノズル:BOX内1つ(外3つ) 消火剤量:0.875kg(BOX内)

放射量:0.0219kg/sec

2.結果

消火剤放出後、上部電池の温度は 低下しましたが、再度温度が上昇しました。 しかし、59℃まで上昇した後、温度が低下し 上部電池は、破裂しませんでした。



Novecミスト①

1.条件

消火剤:Novecミスト

ノズル:BOX内1つ(外3つ)

消火剤量: 0.875kg(BOX内)

放射量:0.0230kg/sec

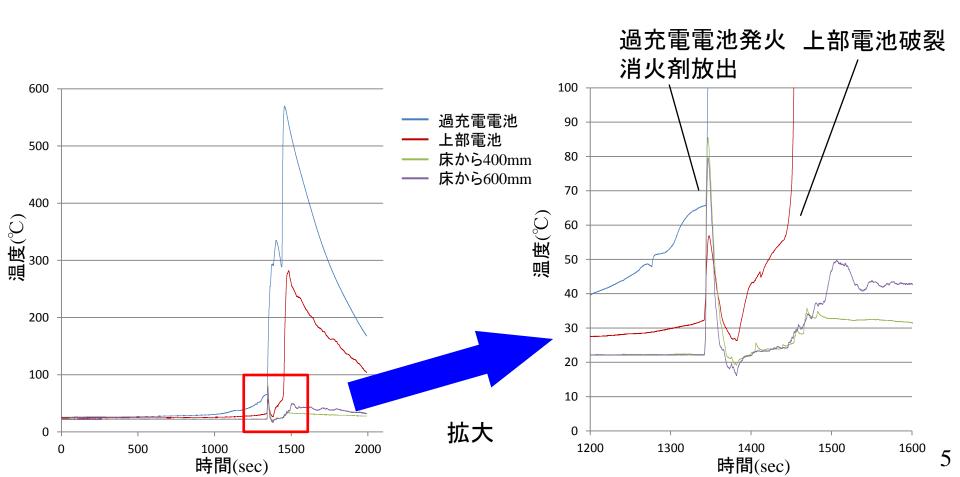
2.結果

消火剤放出後、上部電池の温度は

低下しましたが、再度温度が上昇しました。

過充電電池発火後、約100secで上部電池へ熱が伝わり

電解液がガス化し破裂しましたが、着火はしませんでした。



Novecミスト②

1.条件

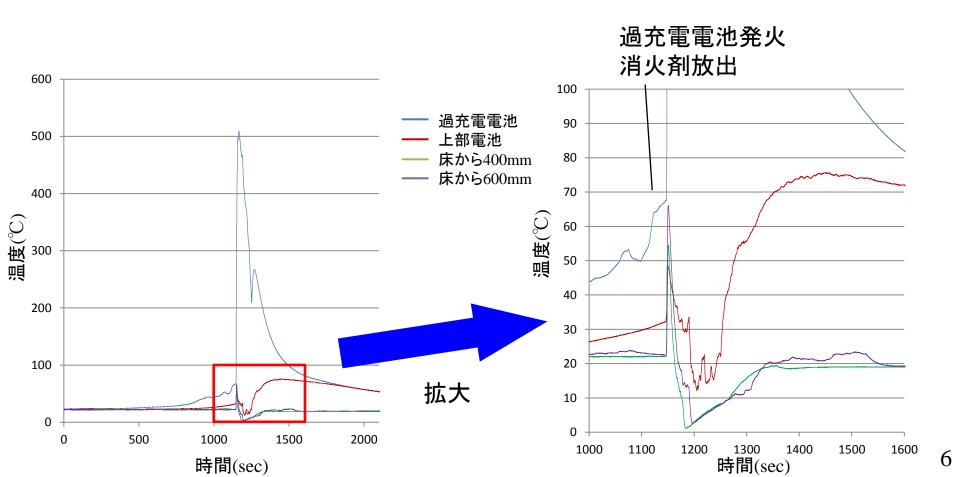
消火剤:Novecミスト ノズル:BOX内2つ

消火剤量:3.5kg(BOX内)

放射量:0.0336kg/sec

2.結果

消火剤放出後、上部電池の温度は 低下しましたが、再度温度が上昇しました。 しかし、75℃まで上昇した後、温度が低下し 上部電池は破裂しませんでした。



消火剤放出後のLipo電池状況



ウォーターミスト

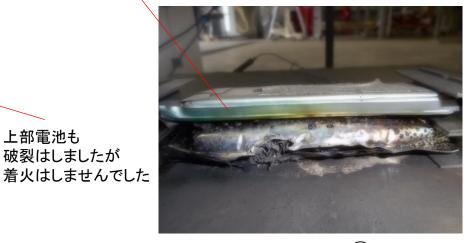
各消火剤を使用した際、 上部電池は発火しませんでした。

過充電電池が破裂発火しても 上部電池へ伝播はしませんでした

上部電池も 破裂はしましたが



Novecミスト①



Novecミスト②

まとめ

Lipo電池に対して、閉鎖空間で過充電し、発火させました。直後、消火剤を放射し、 上部電池への伝播の有無、温度変化を確認しました。その結果を下表に示します。

どちらの消火剤でも、上部電池は伝播しませんでした。

ウォーターミストを使用した際は、上部電池は破裂しませんでした。

Novecミストに関しては、1秒間あたりのBOX内放射量が少ないと(Novecミスト①)

上部電池は破裂してしまい、多いと(Novecミスト②)破裂しませんでした。

よって、Lipo電池に対してNovecミストを短い時間で多く放射することにより、

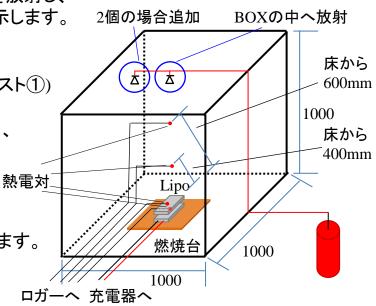
冷却効果が高められ、上部電池への温度上昇が抑えられました。

上記のことから、ウォーターミスト、Novecミスト、どちらの消火剤も

Lipo電池火災に対して有効であると考えられます。

ただし、ウォーターミストを使用した際は、水損被害が大きいため

Novecミストを使用した方が、Lipo電池火災に対して適していると考えられます。



消火剤	ウォーターミスト	Novecミスト①	Novecミスト②
ノズル個数	1	1	2
BOX内消火剤量(kg)	0.875	0.875	3.5
放射時間(sec)	40	38	104
1秒間あたりの BOX内放射量(kg/sec)	0.0219	0.0230	0.0336
上部電池への伝播	なし	なし	なし
上部電池の破裂	なし	有り	なし